

森りようじ リポート。(80号)

～ 皆さんと一緒に、森も動く。～

※『平成 28 年熊本地震』によりお亡くなりになられた方々のご冥福を謹んでお祈りしますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

■大規模災害に対する、様々な準備を。

熊本県を中心に起こった地震災害。東日本大震災から5年が経ち、震災に対する意識が和らぐ中で起こった大震災に、国民全体が大きなショックを受けました。近年議会の議論でも『防災や災害対策』という言葉が日常的に使ってきましたが、今回の震災を受け、改めてまちづくりを進めていく上でこれらのテーマをしっかりと位置付けていく必要性を感じています。

またこのような災害が起こりますと住民の方から『防災関連』の相談や質問を多くいただきます。政府や専門機関でも発表しているように、首都直下型の地震が30年以内に70%の確率で発生すると予測されている中では、今一度「防災・減災」を考え、行動する機会にしていくことが求められそうです。お気づきの点やご意見がありましたら、お声をお寄せ下さい。(裏面で特集)

■陳情対応(3-5月) ※一部紹介

- ①若い人のまちづくりへの参加の促進と実践について
- ②学童クラブ運営に関する充実強化(課題改善策)
- ③渋滞回避のため抜け道化をしている道路の安全対策

■ご案内

- ①次回の駅頭・街頭活動は7月上旬から開始予定です。
- ②流山市議会・初『高校生議会』を開催!

7月28日(木)に市内にある各公立高校の代表者を招き、市議会本会議場で高校生議会を開催します。どのような質問が飛び出すか、今から楽しみです!

○1976年6月12日流山生まれ(39歳)

※サラリーマン家庭(父はNTTに勤務)で育つ
流山市立新川小、流山市立北部中卒業
日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社(管理部ほか)

○2003年4月 流山市議会議員に初当選(2,692票)

○2011年4月 流山市議会議員二期目当選(4,508票)

○2015年4月 流山市議会議員三期目当選(5,830票)

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

○後援会事務所:流山市中野久木559-2

討議資料

森りようじ

森が動く。



流山市議会議員

討議資料

市議会でも5月からクールビズが始まりました。私が議員になった当時、議場では議長の許可により上着を脱ぐことが出来る程度の対応でした。しかし政府主導による提唱効果もあり、今はノーネクタイのみならず、ファッション性も高まっています。ただ毎日の服選びには悩んでしまいます…。

大災害への準備① 【市民の皆さんとの取り組み】

今回の震災に関わらず、行政や自治会では『防災』について積極的に広報活動を展開したり、避難訓練を行う事例が増えています。例えば市内には179自治会がありますが、既に129自治会で自主防災組織が設立されています。(平成27年度末時点) 今回の地震を契機に、更に設立機運が高まることが予想されます。これはとても心強いものです。

同時に行政を監視し、行政を突き動かす組織である『議会』としては、各地域の防災への取り組みを促進する仕組みを再構築(補助制度の充実や強化、法的な制約の撤廃など)していく必要があると思います。過去には議案審査や一般質問の場を通じて、党派を超えて行政に働きかけ、防災備蓄の充実や総合防災訓練の強化などを実現してきました。この流れを止めることなく、更に強めていきたいと思ひます。

大災害への準備② 【議員としての取り組み】

大規模災害が起こった時に“議会はどうあるべきか?”…これは議員である私にとって大きなテーマの一つと捉えています。と言ひますのも私たち議員は“非常勤特別職”という微妙な立ち位置に置かれています。

分かりやすく言えば、毎日市役所で仕事をする公務員とは違ひ、議員は議会が招集された時が『公務』となり、それ以外は自由度の高い勤務体系となっているからです。と言ひても、公務以外の過ごし方としては市民の方からの地域や個人の方の相談や要望に対応したり、議会に関する委員会活動、会派活動、勉強会へ参加するなど多岐に渡る活動をしています。ただしあくまで公務は前述の通りです。



(大津市の議会版BCPを調査研究)

WebSite「森りょうじ」を検索!
また Twitter・Facebook も更新中!

自由度の高さが魅力である反面、有事(大規模災害時)の際は、組織人または個人として動くべきかの立場が曖昧になりやすく、動き方によっては混乱を招く可能性を指摘されています。

私たち議員は市政の意思決定を行う大きな権限が与えられています。ただ前述の通り非常勤の立場であることから、組織内の命令系統も脆弱で、**有事の際の責務や行動規範に関しては特に明確に定められているわけではありませぬ**。このことが良い方向と悪い方向の両方に作用してしまう危険性を孕んでいます。例えば、数年前に工業廃水が江戸川に流入したことにより断水事故が発生した際、市民の方から問い合わせを頂いたそれぞれの議員が、事故対応に追われる職員に個別に対応を求めてしまったことで足かせになってしまった実例があります。その結果、優先してやるべき業務に支障をきたしたことがありました。これは必ずしも間違っているとは言ひませんが、組織の危機管理策としても課題と言ひます。“地方議会のあるべき姿”にも関わる問題として、今後も議会内で問題提起をし続けていきたいと思ひます。

大災害への準備③ 【一市民としての取り組み】

議会でも指摘される地域の高齢化問題は災害時にも大きな課題になりそうです。その際、期待されるのが若い方々による行動だと思ひます。もちろん現役世代の多くの方は市外に勤務しており制約が多いのも事実ですが、例えば平時の時に自治会の枠を超えた30-50代を中心とした“緩やかな地域ネットワークづくり”は、時として大きな力になるかもしれません。



時には酒を飲み、語り合い、笑い、意見をぶつけ合う。このような関係をもつだけでも、災害時には“大きな力”になる!と信じています。ご関心のある方は、ぜひお問合せ下さい!

【連絡先】TEL & FAX: 7155-3236
Mail: ryoji612@peach.ocn.ne.jp